



Musa (追熟と腐敗 / 訛りの表象として)

2018/2022

インスタレーション (ポスター、バナナ)

ポスター：サイズ可変 (アーツ前橋では 420 x 560 mm)

アーツ前橋 (群馬) でのプロジェクト『追熟と訛り』の一部として

この作品は、フランス・マルセイユにあるアーティスト・イン・レジデンス Triangle でのプログラムに参加していたアーティストの友人を訪ねたときに撮った、黄色い壁のスナップ写真に基づく。この写真は、当時はまだ構想もしていなかった現行プロジェクトの本質をどこから捉えていた。その後、写真はポスターとなり、インスタレーションとなり、内包する構造をさまざまな側面で反復しながら変化していく。

レジデンスでの継承

アーティストの友人のいるレジデンスのアトリエには、明るい黄色に塗られた仮設壁が置かれていた。彼女は白く塗らずそのままにして、制作中の白黒のポスターのスケッチを貼っていた。

スタジオに彼女を訪ねるにあたり、バナナを手土産に持参していた。両者の色がびったりと一致したのを見て、バナナをその壁に添えて写真を撮った。その介入も写真も、私の芸術活動の一部として意図したものではなく、また、それが当時の私にとっては「未来のプロジェクト」となるものに関連するとは思ってはいなかった。

Muse - 有機的なプロセスとしての翻訳

半年後、現行プロジェクト『追熟と訛り』(2018-)を開始した。ここでは、移動する人々の生活のなかにある文化と言語の翻訳の有機的な性質(「残り物」の部分が主な焦点)と、これらの動きがいかに置かれた新しい文脈から継承させるかを讀んでいる。

バナナ(ラテン名: Musa)は、多くの人にとって身近な食べ物であり、果実が樹から離れて、やわらかく甘くなるそのプロセスは翻訳の過程を示す例えにもなることから、バナナはプロジェクトの「ミューズ (インスピレーションの源)」となった。

連綿と続く複製 / 生殖 (generations of reproductions)

ポスターと黄色い壁とともにバナナの写真を撮影してから三年が経って初めて、この写真がこの『追熟と訛り』プロジェクトの精神を何らかの形で表していることに気付いた。また、このプロジェクトと黄色い壁の右側にあるアーティストの友人のポスターとの関連性についても、それまで認識せずしていた：ポスターには、世界の人々が異なる言語を話す理由を説く神話的物語を描いたブリュゲルの「バベルの塔」の画像があった。

レジデンスで滞在していたアーツ前橋の堅町スタジオでのパブリック・プレゼンテーションを機に、この写真をからポスターを制作。それを通りに面して設置されたショーウィンドウのような掲示板に貼り、ポスターの足元にバナナを添えて、構造を繰り返した。

バナナが腐るまで、毎日ゆっくりとショーウィンドウの中で熟していく過程を写真で記録。インスタレーションを撤去した後は、ポスターが風化、分解していくことを想像しながら、滞在中に仲良くなった地元の商店街の店にポスターを託した。

協力：
クレモンズ・ド・モンゴルフィエ
(ビッグ・カンヴァセーション・スペース)



(左ページ) ポスターとバナナのインスタレーション風景。一週間の追熟の進行具合が分かる (右ページ、上) ポスターに使用した画像。フランスのマルセイユにあるアーティスト・イン・レジデンスである Triangle のスタジオで私のアーティストの友人の前に滞在したアーティストが残した黄色の仮設壁、そこに貼られたアーティストの友人によるポスターのスケッチ、それらへのバナナを用いた介入を捉えている (右ページ、下) アーツ前橋 堅町スタジオでのプレゼンテーションの後、地元の商店街の店頭での「セカンドハンド」で持続的なインスタレーション風景

